



## 巻頭言

「ミッション・  
ビジョン・  
アクション」

九州教区社会奉仕部長

谷口象二郎  
(大江教会・九州学院)

教会や教会関係施設の働きはミッション・ビジョン・アクションの3段階で考えると分かりやす

いと思います。ミッションはミッショ・デイ(神の使命)といわれるように、もともと神がなさろうとされる御計画のことです。このミッションは神が必要だとお考えになれば実現していくものだろうし、そうでなければ別の形を示されるものだと思います。ビジョンはミッショ・デイを実現するために人間に委託された宣教計画のことですし、アクションはそのビジョンを具現化するために人間が行う諸事業のことです。ですから、人間の都合で創造したビジョンを神が計画された御意志(ミッショ・デイ)と頑なに考え、本来のミッションにそぐわない内容に変質しているにもかかわらず、アクション(事業)の維持だけを自己目的化してしまうということはあってはなりません。アクションは常にミッションに立ち返って検証し、その事業が本来の目的に沿っていないのであればビジョンそのものを大胆に修正していく柔軟性が必要です。この柔軟性のことを信仰(神への信頼)というのではないのでしょうか。ミッションは神の使命であって人間の信念とは違うのです。

この関係は律法と福音の関係に似ていると思います。律法はもともと、罪に陥った人間に、神と人、人と人の新たな関係秩序を取り戻すために与えられた神のルールです。しかし、これが教条的律法主義に陥ってしまうと、せつかく神から与えられたルールであるにもかかわらず、本来の関係回復という目的をはずれ、新たな差別・分断をもたらす壁になってしまうのです。このとき、律法の本来の目的を新たに示して下さったのがイエス・キリストです。神人関係の適正化というミッション(神の使命)は、律法による秩序維持から赦しと救いによる関係回復というビジョンに大幅に修正され、神の独り子の十字架と復活というアクションによって達成されたのです。

私はこの4年間、大江教会代議員、九州教区社会奉仕部長という教会や教会関係施設の行政の側に立つ仕事をさせていただきました。そしてこの立場を通して、仕事先の九州学院と大江教会の歴史的経緯と関係性についてもいろいろなことを考える機会を与えられました。そして、大江教会はもう一度九州学院教会としてのミッションに立ち返って、双方のビジョンとアクションを再検討する必要があると強く思うようになってきました。

神が日本福音ルーテル教会とそれにつながる各事業を通してなさろうとしておられるミッション(神の使命)は何なのでしょう。これからも、神御自身がお示しになったミッション・ビジョン・アクションにおける柔軟な姿勢に学びながら、自分たちのアクション(事業)を絶えず検証し、ミッション(神の使命)に立ち返ってビジョン(事業計画)を修正する、この柔軟な姿勢(神への信頼)を常に失わないようにしたいものです。

日本福音ルーテル教会 九州教区

# 九州教区報

発行所 日本福音ルーテル九州教区事務所  
〒812-0028 福岡市博多区須崎町 3-9  
TEL 092-281-4204 ・ Fax 092-262-6373  
E-Mail kyushu-k@jelc.or.jp  
HP <http://www.jelc-kyushyu.org>

発行人 教区長 濱田 道明  
編集責任者 書記 野村 陽一

## 特集1 九州セミナー報告

2013年11月16日（土）、博多教会で行われた九州セミナーに参加する恵みをいただきました。講師は徳善義和先生で、「ルターと聖書」～宗教改革500年に向けて～と題して、事前に配布された資料を参考にしながらお話しくださいました。

先生の時折ユーモアを交えたお話しはとても分かりやすく、ルターの時代、聖書は大変貴重で一般の人は読めなかったこと、ルターはそのため、一般の人も読めるようにドイツ語で翻訳したこと、宗教改革によって私たちも讃美歌が歌えるようになったこと、そして、あのルターでさえ、最初は神様を憎むほどに聖書を読み、自分の行いによって義なる者になろうとしたということ等々、大変興味深くお聴きしました。ルターは、生涯、修道思想に生きた神の乞食であったそうです。そうした信仰の在り方に少しでも倣えたらと思いました。先生の休憩もされない熱心なお話しに引き込まれて2時間があつという間に過ぎてしまった大変楽しいセミナーでした。感謝！

(山口邦久)



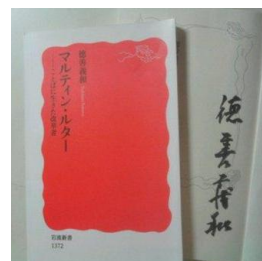
当日はわくわくしながら熊本から博多教会へ参りました。講演の導入はことばにこだわって書かれた徳善先生のご著書、『マルティン・ルター』についてのユニークなお話し。私は『マルティン・ルター』を予約発注し、出版日に職場へ届けて貰い、すぐに読み、わかったつもりになっていました。講演を拝聴した後に読み直しました。“読んだつもり”感は減り、書かれている内容を納得。胸に落ちました。

「福音の再発見」、「『ローマの信徒への手紙』から信仰のキーワードを七つ」、「ルター著書は福音の信仰を伝えるもの」。これら大切なことを聴き、「恵みのみ、信仰のみ」を確認しました。「『恵み』は洗礼、『賜物』は礼拝で頂く聖餐」、「神の真実があなたの信仰を産む」、「信仰は私の内での神様の働き」と聴き、頂く賜物を心身で受け止める信仰生活をしていきたいと思いました。この週の主日11月10日はルターの誕生日、同じ週に講演を拝聴。すてきな週でした。

(熊本教会員、水谷江美子)



今年の九州セミナーでは、日本随一のルター研究者である徳善義和牧師から、ルターがどのように聖書と向き合ったのかを学びました。信仰義認という聖書の中心をルターが見出し、その一点から改めて聖書全体を読み解いていったこと、それをただの知識とせず、生涯をかけて己の生き方としていったことなどを受け取ることが出来ました。1517年の宗教改革開始から500年を迎えようとしているこの時、87名の方と共にこの学びの時を持つことが出来ましたことを感謝いたします。



この講演を記録したDVDを頒布しています(1枚1000円・送料込)。希望者は、教区事務所まで御連絡ください。また、テキストとしても使われた『マルティン・ルター—ことばに生きた改革者』(岩波新書・735円)も発売中です。こちらは、お近くの本屋でご注文ください。

## 特集2 クリスマス

## 阿久根教会

松本裕子

阿久根教会は、東シナ海に沈む夕日と新鮮な海の幸が自慢の町にある小さな教会です。鹿児島教会の小山牧師に兼牧していただいています。

だんだん教会員の方々の高齢化が進み、何人かは神様のもとへ旅立たれました。最近では夜のイブ礼拝に出席するのが大変になり、クリスマス主日礼拝に出席する方が多くなりました。書記さんが案内ハガキを出し、女性は料理を持ち寄り、ケーキを持ってきてくださる方もいます。何も打ち合わせしなくても、祝会とプレゼント交換ができる、そんな小回りのきく教会の良さがあります。鹿児島教会の皆さんと、ネット中継で一緒に礼拝を守り、鹿児島から送られるイブコンサートも聴き楽しみました。



毎年来ていた高校生が卒業して阿久根を離れ、大人ばかりの礼拝でしたが、遠くからタクシーで来られた方、夜道杖をつけて来られた方もいて、少ないながらもクリスマスの喜びを分かち合えました。感謝！

## 清泉保育園

園長 古閑雅子

清泉保育園は、熊本県北部を流れる菊池川中流に位置し、豊富な水と緑に囲まれた環境の中、1965年（昭和31年）2月に幼稚園として設立されました。以後、地域の要望もあり、その後、保育園として歩んでいます。幼稚園設立の基となった清泉教会はなくなってしまいましたが、現在は合志ルーテル教会に繋がっています。

キリスト教の保育園の大きな行事であるクリスマスは、子どもたちにとってだけでなく、保護者、地域の方々にキリストの誕生を知ってもらうチャンスです。しかし何よりも大切なことは、それを伝える私たち職員が誕生を心から祝う事ではないでしょうか。アドベント前に、木下理牧師にお話を聴き、祈り、準備を進めました。子ども自身で選んだ配役の降誕劇、楽しい祝会は、どのように、伝わったでしょうか。



## 水俣教会

牧師 吉谷正典

水俣教会では昨年十月の一か月間で、会計の仕事を長い間勤めてくださった役員をはじめ三名が召天されました。それから二か月も経過していないので、召天された方々の香りや思い出が、会堂や台所の至る所にたくさん残っている中での降誕祭となりました。当日は御遺族の方が三名おいでになり、思い出を色々とお話してくださいましたのでなお更の事でした。



写真は礼拝の後の食事会の様子です。各自がそれぞれ持ち寄ったものを、みんなで分かち合い食べました。スコッチエッグ、おはぎ、山菜おこわ、赤飯、おにぎり、焼き魚、肉料理、海鮮ミックスピザ、野菜サラダ、リンゴ、ミカン～食卓が溢れるほどのご馳走でした。

## 九州学院 「厳かにクリスマス礼拝」

事務長 池永清

12月20日（金）に中学生、高校生、教職員など約1500名が一堂に会し、本学院体育館で九州学院クリスマス礼拝が行われました。第1部はトーンチャイム同好会の前奏で始まり、その後、敬愛会（高校宗教部）、白羊会（中学宗教部）が中心となって聖書朗読、賛美歌斉唱などを行い、富島裕史チャプレンから「暗闇の中に光を」と題したクリスマスのメッセージが贈られました。また、第2部では恒礼の、みどり幼稚園児による聖劇が行われました。

体育館での礼拝が終わると、生徒たちは各クラスに戻り、クラスごとに趣向を凝らした祝会が行われ、学校からは生徒全員に九州学院ロゴ入りのハンドタオルがプレゼントされました。また、生徒・教職員から集められたクリスマス献金は、ルーテル教会連帯献金、日本赤十字社、チャイルドファンド、その他社会福祉施設等へ贈りました。



## 連載 教会物語

日本福音ルーテル日田教会の歩み

日田教会 古賀正男

日田教会は、日田市三本松2丁目3-10の現在地に2008年10月、移転して新築された。教会堂の新築は、宣教100周年事業として日田教会が真木政次牧師の時代から計画して来たもので、野口泰介牧師、藤井邦夫牧師(代議員宝珠山節雄、矢野耐子、安井元一)を経て、日田教会が経営する日田ルーテル幼稚園の学校法人化と共に宮澤真理子牧師の下で実現した。用地の取得と建築に多額の資金を必要としたが、全国のルーテル教会、信徒、関係者など多数の方々の献金と日田教会信徒による長期にわたる献堂貯金によって賄われ、牧師と信徒の苦労が結実したものである。教会堂は、国道386号線に面しており、他所から来た人には、大変わかりやすい場所と言える。移転前は、現在地から約30メートル奥まった場所にルーテル幼稚園と同じ建物にあったが、幼稚園の学校法人化に伴い隣接地に移転したものである。ルーテル幼稚園は、その後、ルーテルこども園と改称して幼稚園と保育園を兼ねた施設として運営されている。2008年10月4日、日本福音ルーテル教会の関係者104名が出席して献堂式が行われた。

日田の地に伝道が最初に始められたのは、1910年(明治43年)のことである。教区資料 日田・吉井伝道記録によると、1909年(明治42年)福岡において催された宣教師会議において久留米より日田にいたる沿道凡てを伝道地とすべき旨決議された。これを受けて、久留米教会米村常吉牧師は、神学生松本学明、三浦亀山と共に日田伝道を開始した。日田・吉井地区伝道の始まりであった。豆田平野町塩屋旅館において、同年7月19、20、21日の3日間、連夜の伝道説教を試みた。そして翌年も同じ塩屋旅館で同じ時期に連夜の伝道説教を行なった。いずれも反響は大きかった。旅館の入り口にも人があふれ、路上も人だかりであったと記されている。1911年(明治44年)新卒の松本学明牧師が、新たに開設することになった日田講義所の定住主任として赴任した。場所は、日田町豆田下中城(工業徒弟学校前)であった。2代目主任亀山万里牧師の時に教会堂兼牧師館が新設され、3代目主任和佐恒也牧師が着任した。1918年(大正7年)6月のことで、同年10月献堂式が行われた。その後、9名の牧師が交替し、戦後になって、教会は勢力を強め、戦前戦後を通じて6・7名の神学教授・牧師も出している。故大内弘助神学校教授・元総会議長宝珠山幸郎牧師・元九州教区長高倉美和牧師などである。最近では、内藤(旧姓緒方)文子、末武十大が牧師として巣立っている。1964年教会の発展を期して中城町から、三本松2丁目の現在地に移転し、(真木政次牧師・藤原哲夫代議員)、1969年幼稚園園舎2階に礼拝堂を落成、献堂式を行った。これが、現教会堂の前身となった。当時付近は、市街地から外れて、桑畑や、田畑の連なる耕作地域であったが、現在では町の発展に伴い市街地の一角である。新しい礼拝堂にはパイプオルガンが備えられ、随時、音楽会も開催される。現住堅信会員は16名である。日田教会も、会員の高齢化が進み会員数が減少している。主管牧師は、大分教会の野村陽一牧師の兼任である。日曜日の講壇奉仕は、九州教区内の引退牧師や信徒説教者の奉仕によって守られている。葬儀や式典などには、甘木教会の森部信元牧師が司会や奏楽を応援して下さっている。教会の毎週の礼拝の準備、会計や事務処理、教会の維持管理など役員会が中心となって行っている。近隣とは言えない遠く離れたところからも、たくさんの、奉仕や応援を受けて今日の日田教会の歩みがある。



### 壮年連盟報告

北九州地区が2013年を担当し、総会・修養会を開き、DVDの作成を行いました。しかしながら、年内にDVDや記録の発送が出来ていないことをお詫びします。2014年は福岡地区が担当で、2月には引継ぎを行いたいと思っています。

会長の役目を終えるに当たり、次のようなことを考えています。今までは北九州地区で集まって活動することは余りありませんでしたが、今後は今回の経験を活かして地区での活動をしていければと思いました。



壮年連盟会長  
河野 精一郎

### 女性会報告

新しい年が始まりました。女性会の活動は会計監査から始まりました。会計を通して1年間の活動を振り返り、良かった点、反省すべき点を確認します。会報『みちしるべ』と『九州版ひびき』での情報発信と交流は概ね好評でした。目標としていた教会・施設訪問がなかなかできなかったのも、今年こそは！と思っています。顔と顔を合わせた交流ができますよう4月には拡大会長会も計画しています。2014年もどうぞよろしく願いいたします。



女性会会長  
岩切 旻世

### 青年会報告

主の御名を讃美します。いつも青年のためにお祈りとお支援を頂き感謝します。

10/12～14に東京教会で行われた全国青年修養会に参加してきました。テーマは「礼拝」で、保谷教会の平岡先生による「礼拝とは」の講義を聞き、こども礼拝、英語礼拝、夕礼拝に出席したり、自分の母教会との違いなどを発表したりしました。私の他に、熊本(神水)から1名、九州出身で東京在住の青年が3名参加し、全国から30名が集まりました。

12/14には、大江教会でクリスマス礼拝・祝会を行い、参加者は13名でした。今年高校を卒業する2名も参加してくれ、爽やかな雰囲気を運んでくれました。東海教区青年会代表の秋田可奈さん(岐阜・大垣教会)も1泊で参加してくれ、楽しい交流が持てました。

2/22(土)には総会を予定しております(健軍教会)。詳細は各教会へ案内ハガキをお送りしますので、近くの青年へのご案内をよろしくお願い致します。



青年会会長  
因 てい子

### 定期総会開催について

第44回九州教区定期総会が次の通り開催されます。

日時 2014年3月20日(木)午後6時  
～ 21日(金・祝)午後3時  
場所 日本福音ルーテル箱崎教会

